

30年5月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成30年 5月1日～ 30年5月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
5月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/5月	6月	7月
入荷動向	国産材	△ 8.3	0.0	8.3
	外材	△ 12.5	0.0	0.0
在庫動向	国産材	16.7	0.0	8.3
	外材	37.5	12.5	0.0

・国産材ラミナの入荷動向は5月、6月の横ばいから7月は増加に。外材は5月の横ばいから6月は増加、7月は再び横ばいに。

・国産材ラミナの在庫動向は5月の増加から6月は横ばい、7月は再び増加に。外材は5月、6月の増加から7月は横ばいに。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/5月	6月	7月
国産材	0.0	0.0	0.0
欧州材	25.0	25.0	12.5
その他	0.0	0.0	0.0

・ラミナの購入価格動向は国産材は横ばい推移。
・欧州材は強含み。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・出荷量が伸び悩んでいるため、国産材ラミナの入荷量は横ばい。種類別のバランスが変わったりしているが、全体量は横ばいとなっている。

・仕入動向：国産材は当社においてはヒノキ。4月から新しいシフト体制として、人員なども再配置したが、従業員の機械取扱いの慣れの問題などがあり生産も伸びなかったため5月は外部仕入れラミナは少し抑えた。6月、7月は生産回復すれば例月並みに戻したい。外材は米ヒバということになる。5月米ヒバ集成材の販売苦戦し、また、新工場での生産も軌道に乗っていないため、ラミナ在庫滞留気味。5月、6月は入荷量を調整し抑える方向。

・在庫動向：国産材は当社においては「ヒノキ」になる。当社新製材工場が順調に立ち上がって来ており、自社製材量が大幅アップ。一方、製材以降の集成材生産はシフト変更の影響で生産大きく落ちており、その影響でラミナ在庫は大幅増となった。5月に何とか集成材生産を立ち直らせ、6月までにはヒノキ在庫平準化させたい。外材の在庫は「米ヒバ」。コストは別として、材料は集まりつつある。一方製品販売の方は依然として低調、6月以降の入荷は市況の動向を見ながら判断する。

(ラミナ価格動向)

・国産材ラミナが4月に若干値上りしたが、まだ価格は強含んでいる。

・国産材は当社の場合ヒノキ。5月の天候も比較的安定していたため、出材は順調、価格も強含み傾向が少し緩み踊り場を迎えた状態。世界同時好景気の様相を呈しており、米国を筆頭に世界的に木材需要は高まっている。従って、対日向けのオファーについても欧州サプライヤーは強気に出て来ており1st QTの価格も軒並み値上がりしている。3rdの契約も少なくとも横ばい以上になるのではないかと。米ヒバ材は依然として米国の旺盛な需要に引っ張られて値段が上昇しており手が付けられない。ただし、冬季のカナダバンクーバーの天候は例年に比べて好調で、2nd QT以降は潤沢な出材が期待でき、値上がりも一段落した。

30年5月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/5月	6月	7月
生産動向	国産材	0.0	8.3	25.0
	WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
	RW集成平角	0.0	25.0	25.0
	米マツ集成平角	12.5	12.5	12.5
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	0.0	16.7	33.3
	WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
	RW集成平角	0.0	37.5	37.5
	米マツ集成平角	0.0	12.5	12.5
	WW集成平角	—	—	—

・構造用集成材の生産動向は、国産材は5月の横ばいから6月、7月は増加に。WW集成管柱は3カ月連続横ばい推移。RW集成平角は5月の横ばいから6月、7月は増加に。米マツ集成平角は3カ月連続増加。

・構造用集成材の出荷動向は、国産材は5月の横ばいから6月、7月は増加に。WW集成管柱は3カ月連続横ばい推移。RW集成平角は5月の横ばいから6月、7月は増加に。米マツ集成平角は5月の横ばいから6月7月は増加に。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	30/5月	6月	7月
スギ集成管柱	△ 10.0	0.0	0.0
ヒノキ集成柱	12.5	12.5	12.5
ヒノキ集成土台	12.5	12.5	12.5
カラマツ集成土台	0.0	0.0	10.0
WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
RW集成平角	0.0	25.0	25.0
米マツ集成平角	25.0	25.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	50.0

・構造用集成材の出荷価格動向は、スギ集成管柱保合。

・ヒノキは集成柱、集成土台とも強含み。
 ・カラマツは集成土台、集成平角とも保合。
 ・WW集成平角、米ヒバ土台角は横ばい推移。
 ・RW集成平角、米マツ集成平角はやや強含み。

モニターからのコメント

(構造用集成材の荷動き)

・国産材構造用は常に横ばいであるが、6月以降の荷動きが良くなる可能性がある。生産量が尾根時であるため、出荷量はほぼ横ばいである。公共物件が6月以降で始める予定。・生産動向：国産材構造用集成材は、引き合いは4月に比べれば若干回復してきたが、未だに重たい。6月はもう少し回復すると思う。当社の生産も工場の体制変更以来上がっていないので、今のうちに生産を立て直し6月は増産につなげたい。WW集成管柱は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、競合する杉集成材が価格競争力があるため、WW集成材からの樹種変更が少しずつ増えて来た。今後WW集成管柱の出荷にも少なからず影響が出るだろう。RW集成平角は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、5月期待したほど販売伸びず、従って生産も低調。6月にずれ込んで、需要回復するとの予想を聞くが、ちょっと荷動きは重たそう。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたMKT故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米松ラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、製品の値上げも行われていると聞く。今後その影響で受注が減る＝生産も減る可能性も。米ヒバ集成土台は、ラミナコスト上昇による値上げを断行。コストアップということで顧客の米ヒバ離れは急速に進行している。それに比して弊社の生産も減産となった。ただし、一部根強い米ヒバファンの顧客もおり、最低限の出荷は確保できる見込み。

(構造用集成材の出荷価格動向)

・スギ集成材は横ばいの見込み。カラマツ土台、カラマツ集成平角はラミナが強含む状況ため、仕入価格次第では、値上がりする可能性がある。

・スギ集成管柱は、当社生産品目ではないが、国内大手生産メーカーの東北の新工場の稼働が軌道に乗ったことや、マーケットそのものが年明け以降停滞していることもあり、横ばい推移が続く。ヒノキ集成柱及び集成土台は、原料価格は原木などジリジリと値上がりしたこともあり、製品価格も値上げしたい所だが、来年以降の需要減少に備えてあまり無茶は出来ない、価格は当面維持して、それよりも値上がり傾向の他樹種材料からのシェア奪取を図る。カラマツ集成土台は、当社生産品目ではないが、同業他社の話によれば、年明け以降荷動きは急激に低下、4月以降徐々に盛り返してきているものの、どちらかと言えばまだ低調気味。価格は1月に一度値下がりしてから横ばい推移が続く。WW集成管柱は、当社では取扱わないが、一般的な同業他社の情報によれば、値上がり傾向で来たものの、前述のスギ集成材が国内マーケットである程度のシェアを持つに至り、スギ集成材との価格バランスの兼ね合いから、価格は1,900円/本位での横ばい推移とのこと。荷動き悪化のため、価格は上げるチャンスもなく、一方原料コストはジリジリと上昇するため国内メーカーは非常に苦しいポジションではないか。RW集成平角は、ラミナコスト上昇に伴い製品販価63,000円/m3程度まで上昇したが、それ以降荷動き低下し販売苦戦。価格もどちらかと言うと弱いくらい。欧州から完成品の値段は上がりずに入ってくるのに、ラミナのコストだけは上げられるため、国内サプライヤーは非常に厳しいのではないか。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米マツラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、製品の値上げも行われていると聞く。米ヒバ土台角は、この一年間で最も値段が上がった並材製品と言える。この一年間苦しい値上げ交渉を続けて来たが、2018年1月を以てほぼ値上げの交渉が完了した。2018年4月からようやく全ての顧客に新単価が適用できるようになった。今後の価格については当面様子を見る。